

近代建築

KINDAI KENCHIKU

May

Vol.75
2021

近代建築

5

特集 庁舎建築の計画と設計

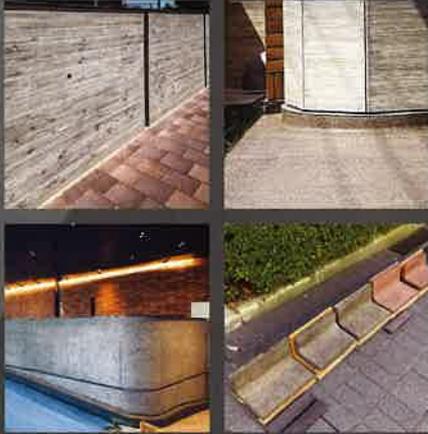
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 丸の内ビルディング 丸の内ビルディング編集局 電話 03-3947-9111
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 丸の内ビルディング 丸の内ビルディング編集部 電話 03-3947-9111

OSHIROX では、独自の加工技術の組み合わせで、
これまでにない世界にひとつのコンクリートの壁をつくります。

岡山県警察本部庁舎 岡山県岡山市
2020年6月

設計/日建設計・倉森建築設計事務所 設計共同企業体
施工/西松建設㈱・林浅沼組・株式会社工務店建設工事共同企業体

外壁
OSHIROX 杉板FFP工法
スティンプロテクター WF(フッ素クリアー)
OSHIROX ハイブリッドピーリング工法
特殊ピシャン仕上
床
OSHIROX ハイブリッドピーリング工法
カラーコンクリート練り込み
特殊ピシャン仕上



高知市庁舎 高知県高知市
2019年11月

設計/日建・上田特定設計委託業務共同企業体
施工/大成・大旺新洋特定建設工事共同企業体

外壁
OSHIROX ハイブリッドピーリング工法
WJRH (ウォータージェット複合意匠)
高濃度含傷シリカコート
OXC-WF 工法 (フッ素クリアー)
外壁 RC
OXC-WAS 工法 (無機系変性シリコン複合クリアー)
外壁 ECP
OSHIROX ハイブリッドカラーコーティング工法



事業内容 ▶ 世界で一つの壁を作ります。: ハイブリッドピーリング工法 (ウォータージェット、特殊ピシャン、研ぎ出し) 責任施工
ハイブリッドカラーコーティング工法 (特殊塗装) 責任施工 含傷シリカコーティング剤及び、特殊塗料、特殊コーティング剤製造販売

株式会社
OSHIROX

代表取締役 牧野 宰之

<http://www.oshirox.jp>

【本社・ショールーム】
〒559-0011 大阪府大阪市住之江区北加賀屋4-1-55 TEL:06-6690-7372 FAX:06-6690-7373
【工場】
〒653-0032 兵庫県神戸市長田区苅藁通1-3-17 TEL:078-671-1641 FAX:078-671-1643

岡山県警察本部庁舎

岡山県岡山市

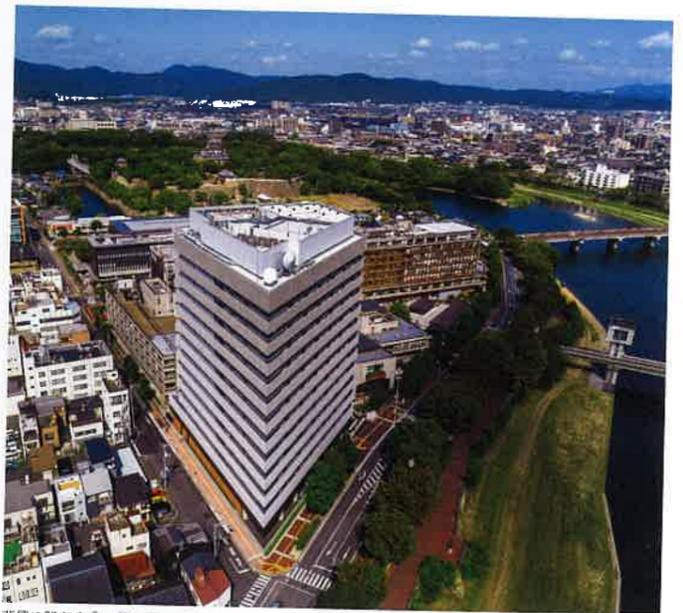
設計・監理／日建設計・倉森建築設計共同体
 施工／西松建設・浅沼組・三幸工務店特定建設工事共同企業体



既存岡山県庁を含めた旭川からの南側外観



付近見取図 縮尺1/5,000



背景に既存庁舎、後案図を望む

設計主旨

一 耐震性能・ノンダウン機能を備えた県警庁舎
 本計画は、前川國男設計の岡山県庁舎（1957年竣工）の敷地内に、地上13階・地下1階の県警本部庁舎を建設したものである。これまで岡山市内に分散していた38所属のうち、28所属を新庁舎に集約し、各部署がこれまで以上に緊密に連携を取ることを目的としている。

免震構造を採用して耐震性能を確保し、自家発電機、無停電電源装置、緊急汚水槽等に

よって、災害対策拠点としての機能を維持し続けられる計画として、総合指揮室、通信指令室、交通管制センターを一体的に整備し、大規模災害や重大事故発生時にリアルタイムで情報の収集・分析が行え、迅速かつ一元的な指揮命令システムを生かした対応が可能となった。

設計に際して、重要と考える点は大きく3つである。

1. 地上免震により1フロアの面積を最大化
 県庁の敷地の限られた範囲の中で、必要な

床ボリュームを確保しつつ免震化を図るために、一般的な地下免震では土留め厚分、柱が内側に配置されることになるため、地上中間層免震としてできる限り柱を外周側に設け、各フロアの有効な面積を確保し、使い勝手の良い平面を実現した。

2. 有事を見据えた開放的な窓廻り
 基準階外周部の梁は床スラブレベル上に梁を設ける逆梁形式を採用した。これにより、窓の天端を上げて、多くの天空光を採り入れることができるようになり、日常時のみなら

ず、有事の際にも自然光で執務を継続できるように配慮した。一方でバルコニーとルーバーで直射光を遮ることで、執務環境を維持しつつ、空調エネルギーの消費を抑えている。加えて、Low-Eガラス、LED照明、照明の調光制御も採用した。

3. 既存庁舎群との調和
 外観は、警察庁舎らしく質実剛健で、県民の安全・安心のシンボルと呼ぶにふさわしい「シンプルで合理的」であることを目指した。大きなボリュームとなることから、岡山随一

の景勝地である後楽園からの眺望に配慮し、建物高さを60m以下に抑えながらも、水平線を基調とする既存庁舎との対比・調和するよう明色で軽快なアルミルーバーを四周に配する構成とした。

一方で低層部は、歴史ある既存庁舎との調和を考え、外壁の大判タイルは既存のレンガタイルと色味を合わせて強還元焼成によって風合いを出し、ピロティの列柱も、既存と同様、杉小幅板型柱のRC柱として、庁舎群としての一体感を大切にしたい。

(若林 亮、田中 公康、中島 上、辻 稔也／日建設計)
 (赤木 定／倉森建築設計事務所)

